

太田東西かわら版

おんころころ せんだりまとうぎ そわか

2025. 9

「家畜」の人生

打った人も 打たなかった人も 大丈夫！になる

コロナワクチン勉強会

薬や注射を求める前に、健康で幸せに生きるためには
「学び続ける意識」が大切。今の体調不良が
コロナ感染後遺症なのか？コロナワクチン後遺症なのか？
そのどちらでもないのか？その検証が必要な時代です。
我先にと打った人、仕方なく打った人、打っていないのに元気がない人
すべての日本人の健康長寿を願っての、画期的勉強会です!!
あなたの大切なご家族ご友人お誘いの上、ふるってご参加下さい。

学術



井上正康
大阪市立大学名誉教授
コロナワクチン研究の
日本では第一人者
関連する書籍・YouTube動画は多数

政治



まきやま大和
長崎県議会議員
長崎県民の知る権利を守るため
情報公開を徹底させる
しがらみ政治からの脱却・
転換を図る唯一の政治家

異なる立場から
コロナ騒動を語る

臨床



太田憲一

参加者を募っての講演会を6年ぶりに実施することにした。
正直、するつもりはなかった。
もう、コロナワクチン問題から離れようと決めていたから。

「どれだけ言っても伝えても、わからない人はわからない」
正直、うんざりしていた。

そんな時、県議会議員の牧山さんからオファーをいただいた。
自問自答した。
結果、「やりたい！」という自分がいた。

そんな自分がいたのは、無念の経験をしているからだ。
以下は、コロナワクチン勉強会案内の裏面。

＜コロナワクチン勉強会＞開催にあたって

私の無念の経験、3つご紹介します。

経験①

「ここは靴を履いたままでよかったんでしたっけ？」

25年間、毎月ご利用くださっていたお客様がおっしゃった、驚きの言葉でした。

最初、「冗談？」と思いましたが、入口で立ち止まり、真剣に尋ねているとわかりました。

それまで認知症の所見は全くなかった、要職に就かれている紳士的な男性でした。

ワクチンをフルで打たれていました。…ブレインフォグ(記憶障害)を経験しました。

経験②

ご夫婦で10年以上ご利用いただいていたご主人。2ヵ月前に胸部レントゲンは異常なし。翌月、咳が気になり再び検査をすると、いきなりステージ4の肺がん末期。

その2か月後に亡くなられました。ホスピスの担当医から奥様は言われました。

「7回のコロナワクチンが原因だと個人的には思います」。…ターボ癌を経験しました。

経験③

元気に薬局に来てくれていた40代の女性。辛い時期を漢方で乗り越えて、20年後気づけば3人の娘を持つお母さんになっていました。

「昔は絶望だった、でも今、幸せでしょ?」。「はい、おかげさまで」。

笑顔で答えてくれた彼女と、それが最後の面談となりました。

前夜に「手がしびれる」と家族に言って、翌朝帰らぬ人となっていました。

…スパイク由来の脳幹出血を経験しました。彼女の体質は低血圧だったのに。

2024年の国内の死亡者数は過去最高の160万人。ワクチン接種開始の4年前から不自然に増加しています。長崎県の人口が130万人。その数以上が亡くなった。

一方で出生数は過去最低の68万人。接種者の月経不順・不妊も増えています。

「自然減」とはとても説明できない現状なのに、なぜこうした事実を政治家やテレビ・新聞のメディア、現場の医者は、伝えようとししないのか?

感染(パンデミック)の不安を煽り、今でもワクチンを推奨するのか?

9月21日、あなたが本気で健康で長生きしたいなら、本気で今の子供たち・若者たちへ希望ある日本の未来を用意してあげたいなら…本気で一緒に考えてみませんか。

太田東西薬局 太田憲一

経験③の40代の女性お客様の死は、特に無念でならない・・・。

彼女がはじめて薬局に来たのは、20代前半だった。
生理痛がひどく、救急車で運ばれたこともあった。
プライベートも仕事も家族も、なかなかうまく行かずうつ状態になり
一縷の望みで太田東西薬局を訪ねた。

どうして自分が不健康で不幸なのか？
その原因が、相手や周りではなく「自分の中にある」ことに気づいた。
それからは“水を得た魚”のように生き生きとして健康回復を果たし
今度は体調がすぐれない母親・祖母を薬局に連れて来ていた。

心身が健康になっていくと、生理痛も解消され、気持ちも安定していく。
そんな時、縁ある男性と出会い、結婚という運びになった。結婚式にも
招待してくれて、スピーチまで頼まれた。

「体調を崩していた彼女は、病気の原因を誰かのせいにせず、医者任せにも
せず、自分の中にあるとして、ほんとうに頑張ってきてました。
今日の祝宴は、新婦自身のその頑張りあってこそです。おめでとう！」

そんな祝辞を述べた記憶がある。彼女は大粒の涙を流していた。
そして気づけば、3人の母親になっていた。

ある時、彼女が語ってくれた。
「先生、今の自分が信じられません。重い生理痛に悩んでいた自分が
3人の娘の母になり、毎日大変だけど幸せだと思えることが、です」

8年前（2017年）の夏



彼女の訃報を耳にしたのは、2023年秋だった。

子供たちの習い事・移動などで、保護者にワクチン接種証明が必要となり仕方なく打った人たちも多い。平等など妄想。この世はピラミッド社会。上の命令に背いた下々の人間は、自由を奪われ、制約を受ける。だから真面目な人ほど、気遣いし過ぎる人ほど、打たざるをえなかった。

2021年コロナワクチン開始当時、河野ワクチン担当大臣は言った。

「海外で2億回打っても死者はゼロ」

「スパイクタンパクは接種後、速やかに体内から消える」

その“お上”からの声明は、真っ赤な嘘だった。

現在まで2000人以上がワクチン接種による死亡と認定されている。スパイクタンパクは接種後数年経っても体内から検出されている。

確かな臨床試験も経ぬまま、「政治の圧力」でワクチンは推進された。不要不急の外出自粛、ソーシャルディスタンス、パーテーション、黙食三密回避・・・科学的根拠に欠く愚策が次々に強要された。

当時、コロナで亡くなった人は1万人ほどだった。今累計で10万人と発表されている。1万人は人口の0.01%。あの騒ぎは何だったのか。「コロナになったら助からない」。多くの国民が“洗脳”されていた。

だから我先にと、こぞって注射を打った。しかも何度も何度も何度も。でも実際は違った。コロナに罹っても、治った。大したことはなかった。そして皮肉なことに、何度も打った人ほどコロナに感染した（今でも）。

ここ数年前から、「带状疱疹」が老若男女問わず増加している。

「带状疱疹ワクチンを打とう!」。国・製薬会社は広報宣伝している。コロナワクチンで免疫が狂わせた結果の带状疱疹、ではないのか？ コロナばかりに目を向けた結果の、「ヘルペス台頭」ではないのか？

国が税金で億単位のワクチンを買った、その“売り上げ金”は、いったいどこに、誰の手元に渡っているのだろうか・・・？

畜舎内の家畜は問答無用にワクチンを打たされる。彼らはエサを与えられ空腹が満たされればそれでいい。飼い主の思うままに身をゆだねる。そんな「家畜化された日本人」が未だに多い。

コロナワクチンで亡くなった日本人、今も後遺症に苦しむ日本人。世界一コロナワクチンを打った民族として、他人事にしてはいけない。